



挨拶

本日、ここに日韓両国技師会交流三十周年記念式典を挙げるにあたり、日本臨床衛生検査技師会を代表し一言ご挨拶申し上げます。

大韓臨床病理士協会との交流は一九八〇年五月、この札幌市で開催された第二十九回臨床衛生検査学会において、第一回日韓臨床検査技師代表者会議が行われました。その会議における両国技師会の合意に基づき、学会式典において日韓協定調印式が執り行われました。その後、その日韓協定に基づき、覚え書きが交わされ今日に至っております。



この間、両国技師会は全国学会、研修会等を通じて交流を深め、臨床検査技術、知識を高めると同時に、両国民の医療及び公衆衛生の向上に貢献し、臨床検査の高い専門知識を共有してきた役割は大きいものがあります。

両国技師会の抱える問題や先端医療技術、医療制度などの問題点、職能団体としての情報交換等を、胸襟を開いて幅広く意見交換をしてきたことが、今日の両国技師会の発展の礎となっております。両国技師会の諸先輩が築き上げた、友好と絆の輪を、今後もゆるぎないものとして広げてまいりたいと願っております。

また、日韓交流を側面から支援する組織として「日韓交流功労者会」が発足され、一九九九年五月、広島で開催された第四十八回日本医学検査学会において調印を行いました。互いの友好を補完する機能を担う意味で、交流功労者会には高い見地からご助言とご指導いただき今日に至っております。

私は、平成十二年釜山市において開催された大韓臨床病理士学会で講演をさせていただく機会を得、日本の医療保険支払い制度を紹介させていただきましたが、むしろ韓国側の先進的な医療保険制度に学ぶ部分が多く、勉強させられると同時に、学会参加者の真摯な聴講に感激して帰国いたしました。

学習意欲と組織の結束を重んじる大韓臨床病理士会は、第二十七回 JCS の学会を盛会裡に開催されると同時に、その学会において開催した、日韓ジョイントシンポジウムは、未来に向けた臨床検査領域の拡大と、診断治療に欠かせない臨床検査業務の可能性を追求する意義ある企画であり、日韓両国技師会の協力体制をゆるぎないものとして印象付けた学会でありました。改めて大韓臨床病理士会会員の皆様と宋学会長に深甚なる敬意を表する次第であります。

両国技師会三十年の交流は、日本・韓国の永い歴史から考えた場合、決して長い交流とはいえませんが、この日韓協定締結三十年の節目として、両国技師会の更なる発展と両国から発したメッセージが、アジア及び世界の臨床検査の進歩と限りない発展につながることを切に希望し、挨拶いたします。

二〇〇八年五月二十九日

社団法人 日本臨床衛生検査技師会会長 小崎 繁昭

昭和 55 年 5 月、第 29 回臨床衛生検査学会時に、札幌市において日本臨床衛生検査技師会が大韓臨床病理士協会と「日韓協定」を締結した。以来、30 年に亘り両国の臨床検査の発展と臨床検査技師の身分向上に向け、情報交換をはじめ両国で開催される学会における研鑽に励んできた。この度、協定締結の地「札幌市」において記念式典を挙行した。韓国からは、宋雲興 <Song Woon Heung> 会長をはじめ、令夫人、更に 21 名の皆様をお迎えした。この度は、記念として両国の交流功労者 4 名を特別表彰し、その労に報いるとともに、今後の両国の臨床検査の発展に貢献するべく共同声明に調印した。



式典で挨拶する大韓臨床病理士協会 宋雲興 会長